

北海道体験活動指導者セミナー ～北海道の食の魅力を再発見～

★事業の概要★

事業のねらい

1. 北海道の自然や伝統文化を有効活用した体験活動の指導法とその技術を身につける。
2. 学校教育における体験活動の意義について理解し、教育課程との関連性について学ぶ。

期 日

平成27年10月10日(土) ～ 10月12日(月)

会 場

国立大雪青少年交流の家

対 象 者

国公立・財団等の青少年教育施設職員 青少年教育に係る指導員やリーダー等
都道府県・市町村の社会教育主事や社会教育担当職員
教職員や民間団体等で指導に携わる者やそれを目指す大学生等（18歳以上）

参加者数：参加募集人数

17名：20名

講 師

NPO 法人北海道食の自給ネットワーク 事務局長 大熊 久美子 氏
北瑛の丘ビブレ 美瑛料理塾 塾長 齋藤 壽 氏
ふれあい館ラブニール
NPO 法人北海道遺産協議会 事務局 萩 佑 氏
国立大雪青少年交流の家 所長 阿部 豊
国立大雪青少年交流の家 職員 国立日高青少年自然の家 職員

日 程

	13:00		14:00		15:30		15:45		17:30		19:00		20:30		22:00	
10/10 (土)			受 付	オ リ ン ピ ッ ク 開 会 式	【講義Ⅰ】 体験活動の 教育的意義		休 憩		【講義Ⅱ】 食育の重要性	夕 食	【演習Ⅰ】 グループ ワーク		入浴 ・ 就寝準備		就 寝	
10/11 (日)	7:30	9:00	10:30	10:45	12:00	12:15	14:15	15:00	16:30	19:30	22:00					
	朝 食	移 動	【講義Ⅲ】 北海道遺産の 食について	休 憩	【講義Ⅳ】 地域の農産物 と食の関係に ついて	移 動	【演習Ⅱ】 地域の農産物を生 かした調理方法に ついて	移 動	休 憩	【講義Ⅴ】 安全管理に ついて	【演習Ⅲ】 野外炊飯 北海道遺産を食べよ う		入浴 ・ 就寝準備		就 寝	
10/12 (月)	9:30	12:00	13:00	14:00												
	朝 食		【演習Ⅳ】 企画立案・発表	昼 食	ま と め	閉 会 式										

★プログラム紹介★



「講義Ⅰ：体験活動の教育的意義」

青少年教育の現状や課題を把握し、発達段階に応じた体験活動の必要性を学んだ。



「講義Ⅱ：食育の重要性」

子供たちの食の現状を把握し、指導者として何を求められるかを学んだ。



「講義Ⅲ：北海道遺産の食について」

北海道遺産とその中の食の遺産について学んだ。また、グループワークを通して北海道遺産の普及について考えた。



「講義Ⅳ：地域の農産物と

食の関係について」

地産地消についての取組や現代における食の考え方について講義から学んだ。



「演習Ⅲ：野外炊飯

北海道遺産を食べよう」

安全管理を学んだ後、指導者の視点に立ちながら、野外炊飯を行った。



「演習Ⅳ：企画立案・発表」

講義や演習の内容を踏まえ、社会教育の立場と学校教育の立場に分かれて、企画の立案・発表を行った。

企画・運営のポイント

北海道の自然や伝統文化を「食」の観点に特化して事業を展開したことによって、食に関わる体験活動を指導するうえで必要な知識や技術を身に付けるプログラムとした。

事業を終えて(成果と課題)

食育の重要性について事例を通して学ぶことで、指導者としての食育の考え方を深めることができた。

現職の教員や学生、社会教育関係者など、様々な分野の方々参加によって多様な角度から食についての学びを深めることができた。

食の大切さに対する理解が現状として大きなニーズになっていないため、参加者を集めるのに苦労した。広報の進め方を十分に検討する必要がある。

今後の方向性

北海道の地域性や特色を活かした体験活動全般をさらに推進していくために、国立日高青少年自然の家と連携し、安全で安心な体験活動を指導できる人材を育成していく。

事業参加者を確保するため、自然体験活動以外の指導者ニーズを把握する。